

ドナー登録者増加に向けた今後の取組について

R7.11.12

長野県健康福祉部 疾病・感染症対策課

1

今後取り組みたい重点課題

- ① 若年層ドナー登録者の確保
- ② 骨髄バンクドナー登録説明員の確保
- ③ ドナー休暇制度の導入・利用促進
(ドナーの応諾率向上の取組)

① 若年層ドナー登録者の確保について

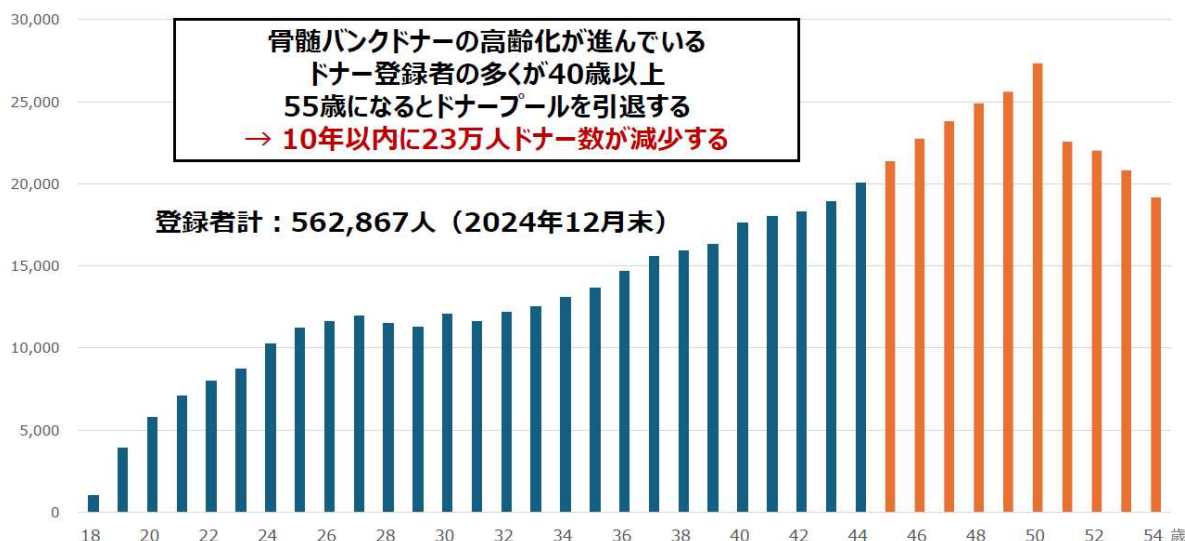
- ◆ 骨髄バンクドナー登録者のうち、最も多い年齢層は令和5年3月末時点で50歳（10年前は40歳）
- ◆ ドナー登録できるのは、18歳以上、54歳以下で健康状態が良好な方
- ◆ 長野県は都道府県別新規若年ドナー登録比率（30代以下）で全国44位

3

現状（全国の場合）

① 若年層ドナー登録者の確保

日本骨髄バンク(JMDP)の年齢別ドナー数



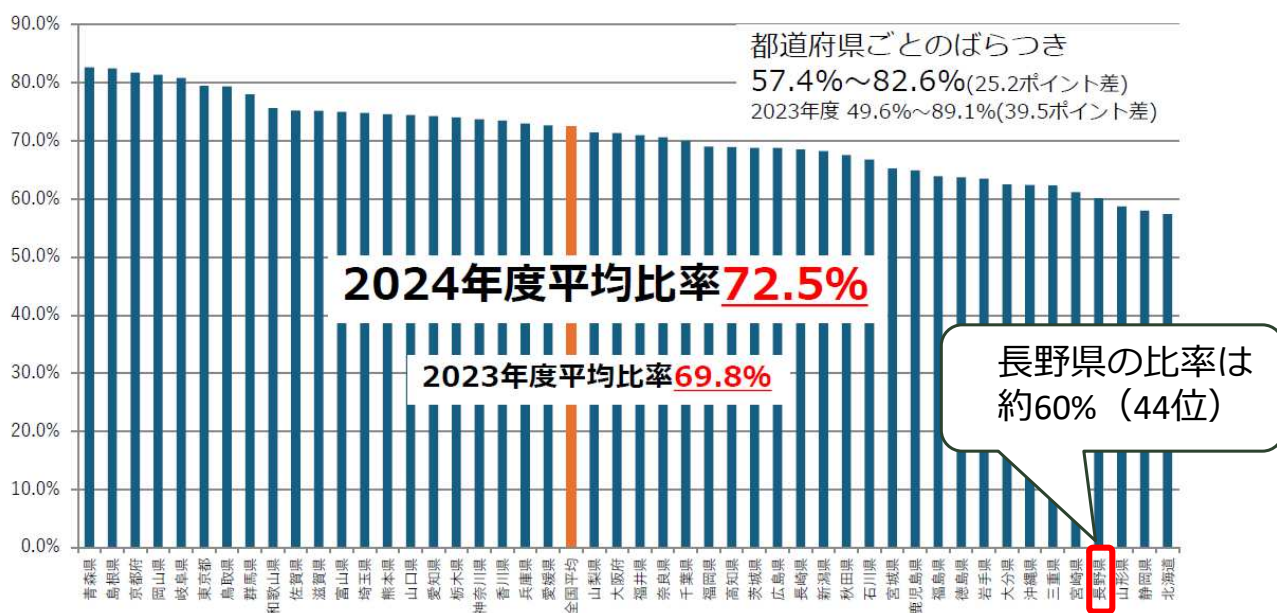
出典：日本骨髄バンク主催の令和7年度都道府県骨髄バンク担当者会議資料より

4

現状（全国状況）

①若年層ドナー登録者の確保

都道府県別新規若年ドナー登録比率[30代以下]



出典：日本骨髄バンク主催の令和7年度都道府県骨髄バンク担当者会議資料より

5

今後の取組

①若年層ドナー登録者の確保

若年層ドナー登録に効果的な新たな取組を模索し実施する

【取組例】

- ◆ 教育機関での並行登録会
- ◆ 本事業に協力してくれる団体（大学の献血サークル等）への協力依頼
- ◆ 教育機関近隣駅での啓発ポスター掲示
- ◆ SNS等を活用し、若年層への広報啓発を行う

6

②骨髄バンクドナー登録説明員の確保

骨髄バンクドナー登録説明員とは

- ◆ 並行登録会において、ドナー登録のための要件について説明及び登録手続きを行うボランティア

本県において並行登録会でのドナー登録者数は全体の4割を占める

- ◆ 近年県内の骨髄バンクドナー登録説明員は減少傾向
- ◆ 登録説明員が不足すれば並行登録会を開催できないので、このままの状況が続けばドナー登録者数の減少につながる。

7

今後の取組

②骨髄バンクドナー登録説明員の確保

関係機関の力を借りながら、骨髄バンクドナー登録説明員の確保に努める

【取組例】

- ◆ 県のホームページ等を通じて、骨髄バンクドナー登録説明員を募集
- ◆ 骨髄移植をされた患者や家族に対し、登録説明員の募集を案内
- ◆ ボランティア団体に対して登録説明員を募集するチラシの配布

8

③ ドナー休暇制度の導入・利用促進 (ドナーの応諾率向上の取組)

- ◆ 骨髄バンクのドナー登録者が実際にドナー候補となり、骨髄を提供するには、1週間から10日間程度の通院・入院が必要。
- ◆ そのため、ドナー候補に選ばれても、仕事の都合等を理由にコーディネートを辞退する方が全体の3割近く存在する。
- ◆ ドナーが提供しやすい環境の整備が求められている

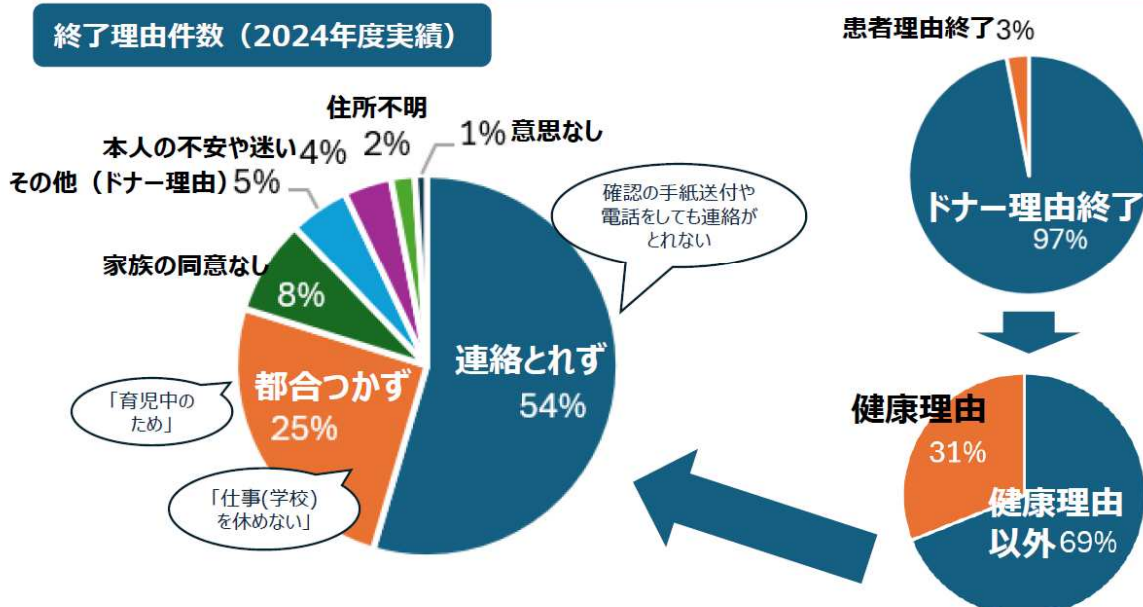
9

現状 (全国の場合)

③ドナー休暇制度の導入促進

Coordinate開始後の「都合つかず」の内訳

終了理由件数 (2024年度実績)



ドナーが提供しやすい環境を整備するために、企業への各種制度の周知や、骨髄等移植ドナー支援事業（補助金）未導入の町村への働きかけ等に力をいれる

【取組例】

- ◆ 長野県がん対策推進企業等連携協定締結企業への周知
- ◆ 職場環境改善アドバイザーが企業等へ訪問する際に、補助金や休暇制度を周知するチラシの配布してもらう
- ◆ 支援事業未導入の町村への働きかけ（課題共有、解決に向けた助言等）
- ◆ 骨髄バンクに関する県のホームページを更新し、補助金や休暇制度の説明を充実させる